九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[049]中国文学論集表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/4363572

出版情報：中国文学論集. 49, 2020-12-25. The Chinese Literature Association, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

彙　報

○講義題目

＊印は他講座教員との共同オムニバス授業

令和二年度前期（春学期・夏学期）

文学部

講義　東アジア伝統文化研究の諸相　静永教授
講義　科挙と中国文化／中国音韻学の歴史　静永教授
講義　中国白話文学研究　井口講師
演習　唐詩研究の四視点　静永教授
演習　中国白話小説講読　井口講師
演習　古典文学作品研読　景教師
演習　中国文学研究法　景教師・井口講師・静永教授
中国語（中級）Ⅲ・中国語初歩Ⅰ　（佐賀大学）中尾友香梨教授
中国語会話Ⅰ・中国語作文Ⅰ　景教師
古典語（漢文）Ⅲ　（西南学院大学）栗山雅央講師

人文科学府

演習　文選の研究　静永教授
演習　明代伝奇訳注　井口講師
演習・博士演習　中国文学研究法　景教師・井口講師・静永教授
論文指導　中国語学中国文学の諸問題　静永教授
論文指導　中国語学中国文学の諸問題　井口講師

令和二年度後期（秋学期・冬学期）

基幹教育科目

文系ディシプリン科目（文学・言語学入門）　静永教授

文学部共通科目

人文学基礎Ⅱ　中国の大衆文学について　井口講師＊
人文学Ⅳ　元曲を読む―演劇の読書化　井口講師＊

文学部

講義　史記項羽本紀講読　静永教授
講義　中国白話文学研究　井口講師
演習　唐汝詢『唐詩解』会読　静永教授
演習　科挙と中国文化／中国音韻学の歴史　静永教授
演習　中国白話小説講読　井口講師
演習　古典文学作品研読　景教師
演習　中国文学研究法　景教師・井口講師・静永教授
中国語（中級）Ⅳ・中国語初歩Ⅱ　（佐賀大学）中尾友香梨教授
中国語会話Ⅱ・中国語作文Ⅱ　景教師
古典語（漢文）Ⅳ　（西南学院大学）栗山雅央講師
中国語科指導法Ⅰ　種村由季子講師

集中講義　清代域外官話研究　（京都大学）木津　祐子教授
集中講義　中国古代の音楽文化　（國學院大學北海道短期大学部）山寺美紀子講師

人文科学府

現代文化論C　井口講師*・静永教授*
演習　文選の研究　静　永　教　授
演習　明代伝奇訳注　井　口　講　師
演習・博士演習　中国文学研究法　景教師・井口講師・静永教授
論文指導　中国語学中国文学の諸問題　静　永　教　授
論文指導　中国語学中国文学の諸問題　井　口　講　師

○学位論文

（二〇二〇年三月学位取得）

中島敦と西遊記　〔学士〕阿　部　椋　平
『聊斎志異』王金範刻本に見る怪異について　〔学士〕山　田　ひかり
中国の禁書について　〔学士〕吉　村　尚　樹
『世説新語』における皇帝権力　〔修士〕古　野　亜莉沙
一九三〇年代の北京における日中学術交流研究　〔博士〕稲　森　雅　子

○中国文藝座談会

第三〇八回（二〇一〇年二月一日）　於イースト一号館C－二〇三室

司馬懿考　大　園　大　輔
諸葛亮の人物像について　藤　原　惣
李卓吾の思想と『水滸伝』　坪　郷　孝　則
『閲微草堂筆記』の創作意図について　干　佳　琳

第三〇九回（二〇二〇年三月七日）　於中国文学研究室

唐詩押韻攷　鹿　島　大　吾
宋詩における猫　田　代　舞
『三才図会』鳥獣部の原典　福　田　華　矢
『紅楼夢』の中の侍女　堤　駿　都
「嫩」の文学史的考察　林　暁　光

第三一〇回（二〇二〇年九月二十四日、オンライン開催）

陸機「漢高祖功臣頌」の創作時期について　王　昊　聰
中国人民大学蔵周之標『四六琯朗集』について　岩　崎　華奈子
目加田誠博士旧蔵一九三四年大学講義プリントについて　稲森雅子・王昊聰・汪洋・木村淳美・陳禕璇

第三一一回（二〇二〇年十一月二十六日、オンライン開催）

司馬相如「喩巴蜀檄」について　木　村　淳　美
曾国藩とその幕府における文学活動―詩歌唱和を中心に　汪　洋

○他学会・研究会での発表（事務局把握分のみ掲載）

第七十二回日本中国学会大会
（二〇二〇年十月十日、オンライン開催）
陸機「漢高祖功臣頌」の創作時期について　王　昊聡

第六十八回九州中国学会
（二〇二〇年十月三十日、オンライン開催）
明代白話小説と大衆の生活　井口千雪

○社会連携事業

九大文学部・朝日カルチャーセンター提携講座
「言語と文芸―古典の扉を開く」（二〇二〇年二月十五日）
於朝日カルチャーセンター福岡教室
『三国志演義』と明代の人々　井口千雪

九州大学言語運用総合研究センター社会連携特別セミナー
「ことばを考える」（二〇二〇年二月二十一日）於天神ビル
関羽の「義」と曹操の「奸」―『三国志演義』を読む　井口千雪

○大学間学術交流

中国・浙江大学中文系との学術交流（二〇一九年十二月）
＊院生交流会（十二月十六日）
於イースト一号館B－二〇三室
陸機「弔魏武帝文」執筆とその後の変化について　王　昊聡
『梁簡文帝集校注』注釈的若干問題　（浙江大）裘　石
重構的図景―論「放翁体」的形成与流変　（浙江大）商　宇琦
＊大宰府文化散策（十二月十七日）

○受賞

二〇二〇年度日本中国学会賞受賞（文学・語学部門）
武定侯郭勛による『三国志演義』『水滸伝』私刻の意図　井口千雪

○会員消息（事務局把握分のみ）

林　暁光　三月、九州大学特定プロジェクト教員（外国人教師）を終えて、浙江大学中文系に帰任。

景　浩　四月、九州大学特定プロジェクト教員（外国人教師）として、西北師範大学文学院より着任。

稲森　雅子　四月、九州大学人文科学研究院助教に着任。

○会員近著（事務局把握分のみ）

有木　大輔ほか（紫陽会編著）『大沼枕山『歴代詠史百律』の研究』（汲古書院、二〇二〇年二月）

諸田　龍美『中国詩人烈伝―人生のヒントをくれる型破りな十賢人』（淡交社、二〇二〇年三月）

二宮　俊博（遺稿）『津阪東陽『杜律詳解』全釈』（自費出版〔二宮印刷〕、二〇二〇年四月）

阿部　泰記『中國歴代「王昭君」故事』（自費出版〔三共印刷〕、二〇二〇年四月）

古川　末喜『二十四節気で読みとく漢詩』（文学通信、二〇二〇年十月）

執筆者紹介（掲載順）

林　暁光　浙江大学人文学院副教授

景　浩　九州大学特定プロジェクト教員・西北師範大学文学院副教授

竹村　則行　九州大学名誉教授

ウィリアム・マッダ　四川大学外国語学院日文系副教授

東　英寿　九州大学大学院比較社会文化研究院教授

鍾　東　中山大学中文系副教授

岩崎華奈子　九州大学大学院専門研究員

稲森　雅子　九州大学大学院人文科学研究院助教

王　昊聰　九州大学大学院人文科学府博士後期課程

木村　淳美　九州大学大学院人文科学府修士課程

汪　洋　九州大学大学院人文科学府修士課程

陳　禕璇　九州大学大学院人文科学府修士課程

編集後記

本号の『中国文学論集』には、十二人の執筆者の皆様が筆をお寄せ下さり、南北朝時代から現代まで、多彩な中国文学研究を収める一冊を上梓することができました。ここに厚くお礼を申し上げます。

二〇二〇年は、covid-19の影響による世界的な混乱に直面した一年でした。とりわけ中国との縁の深い私たち中国文学研究者にとっては、考えさせられることの多い年であったと思います。二〇一九年十二月、中国湖北省武漢市で原因不明の新型肺炎が検出され、年明けの一月六日・七日には日本でも「厚生労働省検疫所FORTH」ホームページに注意喚起が掲載されました。九日には中国当局より新型のコロナウイルスが原因とみられるという発表がありましたが、この頃にはまだ日本のマスコミも危機感をもって大々的に報じるというほどではなかったように記憶しています。中国では、SARSの防疫・治療に当たって世界的に知られるようになった鍾南山医師が衛生当局の専門家チームのリーダーに就き、二十日、covid-19がヒトからヒトへ感染することを明言するや、人口一千万人を超える大都市武漢が、二十三日を以て封鎖されるという遽かには信じ難いニュースが飛び込んで来たのでした。中国では一月二十五日の春節（旧正月）にさしかかっていた頃でしたが、現地在住の方に話を聞くと、親戚や隣人が集まることも少なく、他の村庄との往来が制限され、発熱を伴う風邪の症状が出ればその家は厳重に封鎖されるという具合で、例年のあの賑やかな春節の面影は無かったとのことでした。

中国で痛みを伴う大規模な制限が実施される中、日本に在住する中国人留学生や研究員の方からは、湖北省出身というだけで周りに微妙な顔をされるので外出を自粛している、自国の対応が遅かったために世界に感染が拡がってしまったのではないかと責任を感じている、という声を漏れ聞くこともありました。当時は、感染源・感染経路とも解明されていないにも関わらず、また経済を重視して水際対策の

措置を遅らせたのは世界各国の自己決定であったにも関わらず、いつの間にか、中国のみに責任を押しつけるような雰囲気が醸成されつつあり、ニュースやSNSにおいて、理不尽な批判、心ない攻撃を目にすることもしばしばありました。このような状況の中で、大切な留学生達、友人達をどのように守れるか――中国文学に関わる研究者、学生の皆さんの多くが、このような苦悩を抱えられたのではないでしょうか。

現在では、世界各国において二〇一九年十二月以前の早い時期からcovid-19のヒトからヒトへの感染が拡がっていたことが明らかとなっています。今後、感染源や感染経路はより正確に明らかになっていくのではないかと予想されますが、いずれの国で発生したものであれ、どのような経路で感染が拡がったのであれ、それはただに今後の人類の感染症対策に活かすべき情報に過ぎぬということを心得、一部の国、一部の人々に怒りの矛先を向けるような方向には進むことのないよう願っています。また国内においても、感染者を責めたりするようなことがあってはならず、他人の心に寄り添える寛大さを持つ社会、互いに助け合う心を忘れない社会であって欲しいと願います。

四月七日に緊急事態宣言が発令されて以降、九州大学でも他大学と同様に、マイクロソフトのアプリTeams等を利用し、レジュメやPPTを学生と画面共有しながら口頭で説明を加えるといった形式でのオンライン授業が行われています。私などはアプリの操作からして一から学ぶという大苦戦ぶりでしたが、教員の皆様方におかれましては、対面授業との特性の違いを踏まえて、どのように授業を組み立てれば学生が興味を持って学べるだろうかと、苦慮する日々を送られたことと存じます。学生の皆さんは、研究室の仲間と交流を深めることもままならず、不安な思いに駆られることもあったのではないでしょうか。厳しい状況の中で、論文を執筆し投稿して下さった先生方、学生の皆様、本当にお疲れ様でした。また九大中文研究室の外国人教師の先生方には、中国からの渡日手続き、そして帰国手続きに大変難儀

される中で、ご論考をお寄せ下さいましたこと、心より敬意の念を表します。

人間社会が大きく動揺し、大きな変化を迫られる時代にはいつも、明日をも知れぬという刹那的な風潮が人々の間にのっそりと頭をもたげ、ままとして人に冷静な判断を失わせることがあります。しかし私達は、このような不安定かつ困難な時代にこそ、長期的な目線を以て社会のあり方を見つめ直し、また自己を見つめ直すことが、より良い未来に繋がるのだということを、同様の社会的動乱を経験した先人達により積み上げられてきた人文学的叡智から学ぶことを許されています。今こそ、人文学の力、文学の力が、世の中に大いに求められる時なのではないでしょうか。

来年度発行予定の『中国文学論集』五〇号につきましても、会員の皆様からのご投稿を楽しみにお待ちしております。ぜひふるってご投稿ください。

（井口　千雪　記）